

岡山県のがん対策の状況について

岡山県保健福祉部

平成24年7月26日



# 目 次

## 1 がんの死亡・罹患の状況

(1) がんの死亡の状況	1
(2) がんの罹患の状況	8

## 2 がんの予防の状況

(1) 喫煙問題	10
(2) 肝炎対策	11
(3) 生活習慣	14

## 3 がん検診の状況

(1) がん検診の受診率	16
(2) がん検診の質	20

## 4 がん医療提供体制の状況

(1) がん治療の提供体制	22
(2) がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院の整備状況	23
(3) がん医療連携の推進	26
(4) 緩和ケアの推進	26
(5) がん患者・家族への支援	27

## 5 岡山県がん対策推進計画の目標とその現状

29

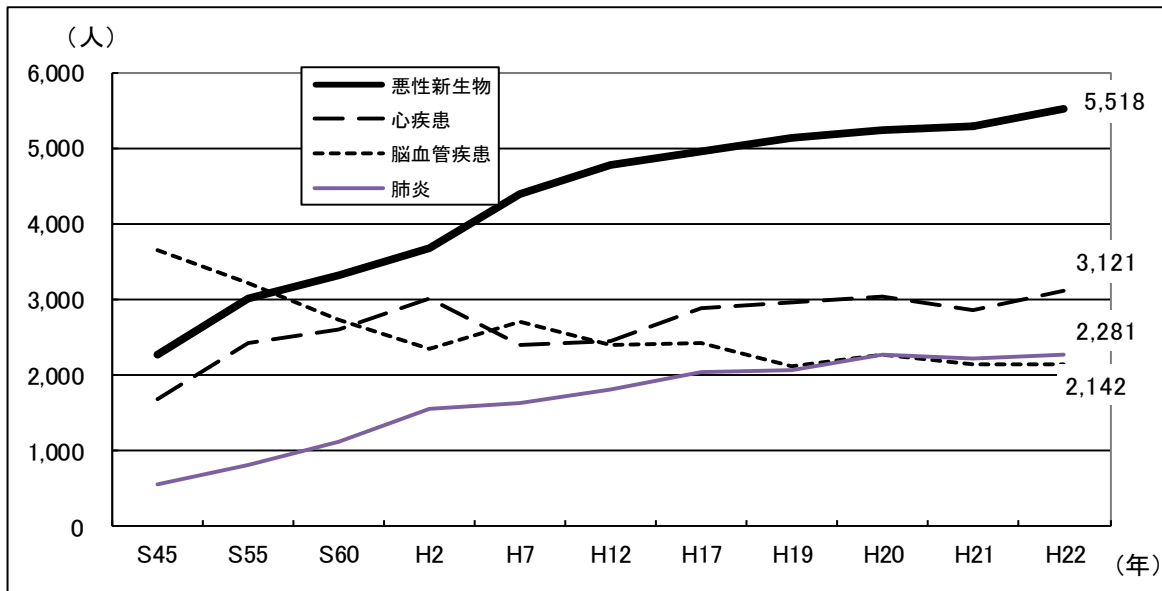
# 1 がんの死亡・罹患の状況

## (1) がんの死亡の状況

### ① がんによる死亡の推移

がんによる死亡数は増加傾向にあり、昭和57年以降、岡山県の死亡の第一位である。

主な死因による死亡数の推移

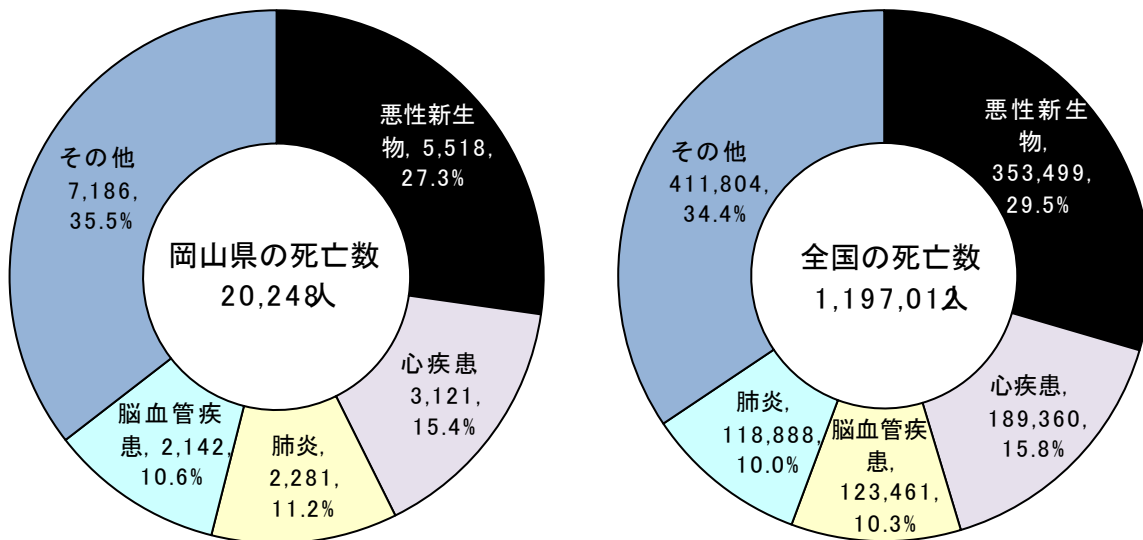


【出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

### ② がんによる死亡の状況

岡山県では、死亡した人の約3割ががんで亡くなっている。がんによる死亡の割合は全国に比べ、やや低くなっている。

死亡数及び割合 (平成22年)

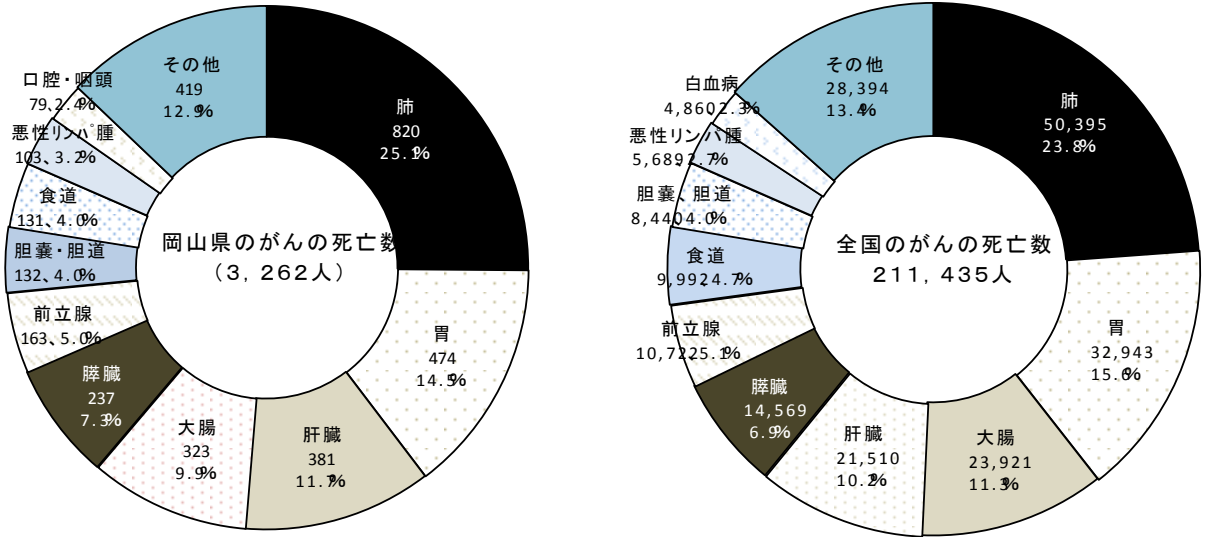


【出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

### ③ がんの部位別死亡

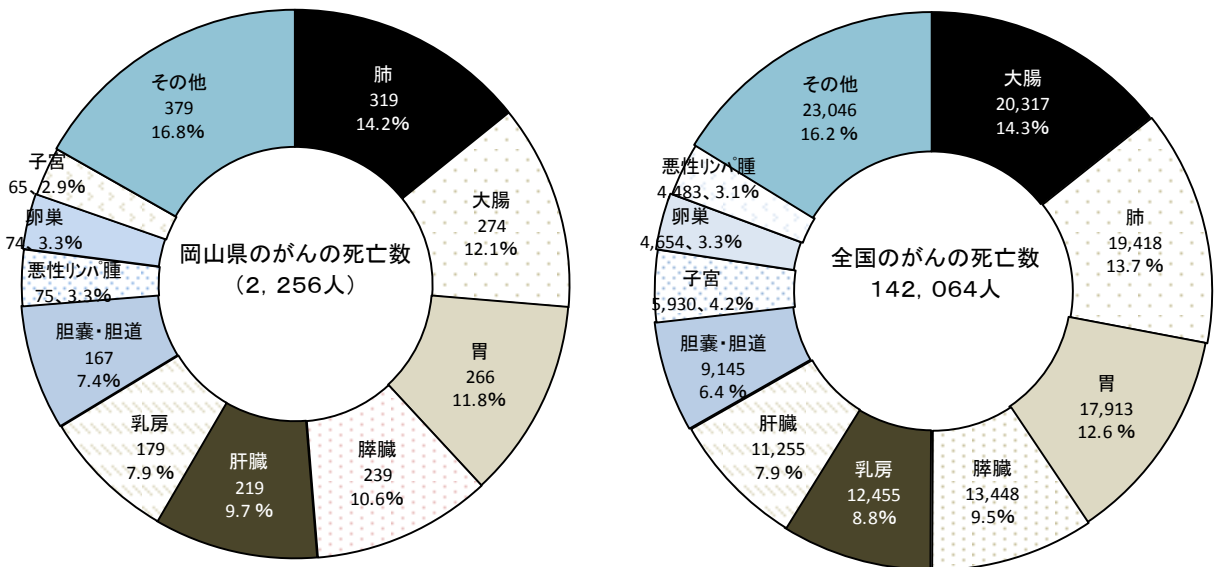
岡山県のがんの部位別死亡を見ると、男性では肺が最も多く、次いで胃、肝臓の順である。女性でも肺が最も多く、次いで大腸、胃の順となっている。

男性の部位別死亡数及び割合 (平成22年)



【出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

女性の部位別死亡数及び割合 (平成22年)

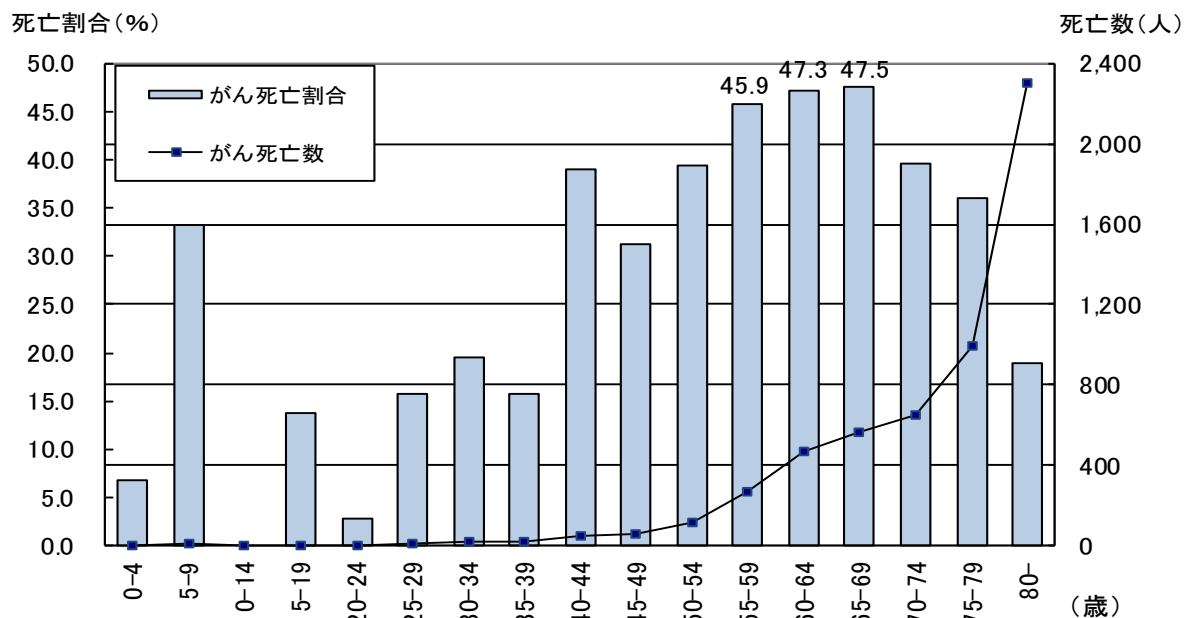


【出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

#### ④ がんの年齢階級別死亡の状況

がんによる死亡数は高齢になるほど多くなっている。年齢階級別の死亡割合では、55歳から69歳までが高い状況にある。

がんによる年齢階級別死亡数及び割合 (平成22年)



【出典:厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

がんによる年齢3区分別死亡数及び割合 (平成22年)

年齢区分	死亡数 (人)	割合 (%)
0歳以上～15歳未満 (年少)	7	11.1
15歳以上～65歳未満 (生産年齢)	1,001	40.6
65歳以上 (老年)	4,510	25.4

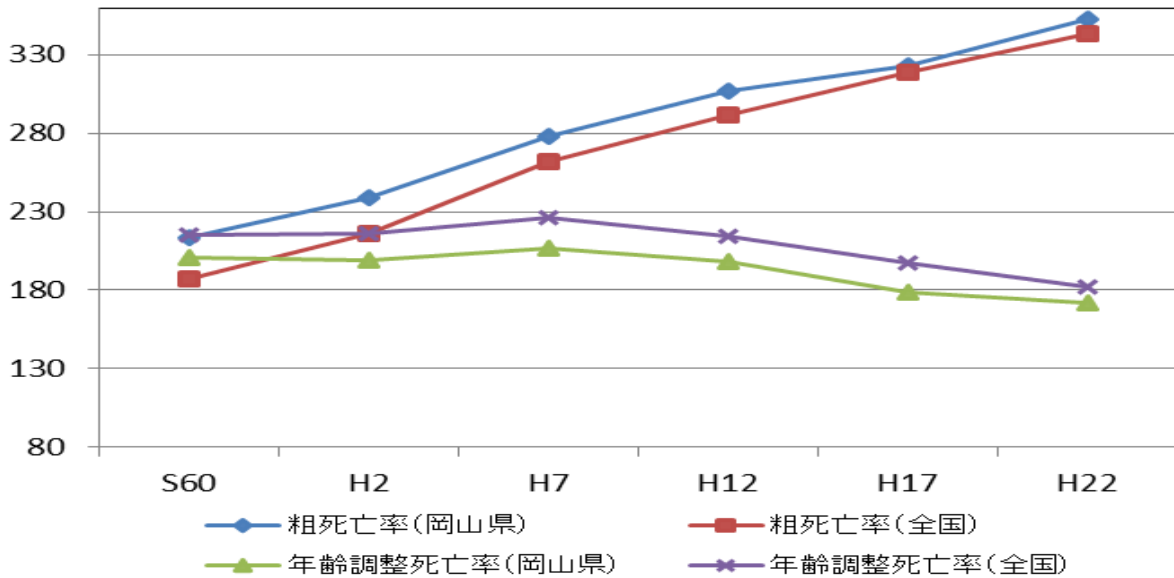
【出典:厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

⑤ がんの死亡率の推移

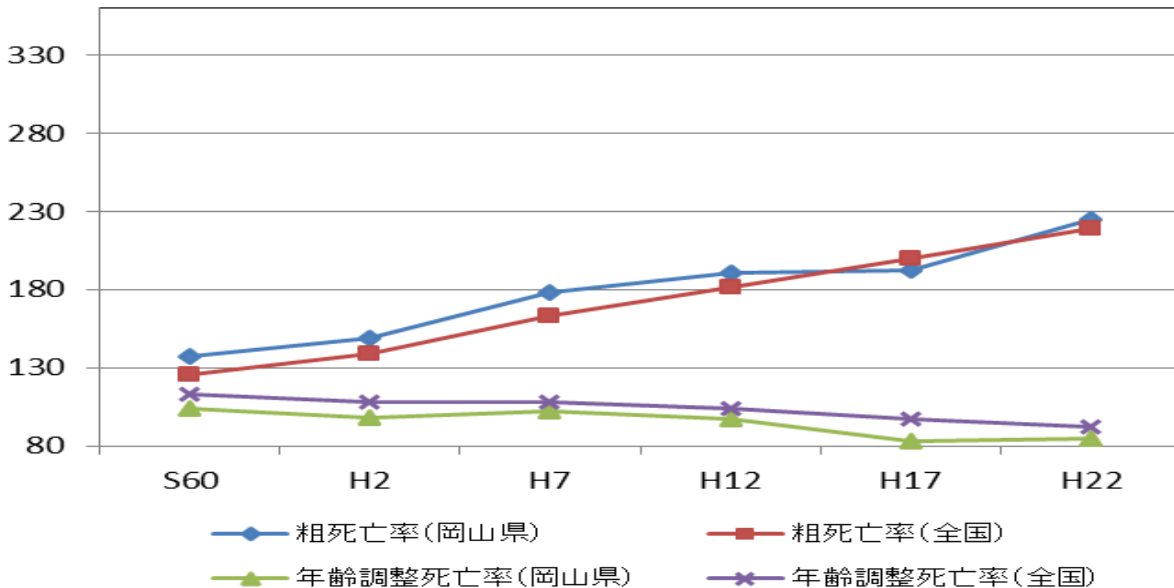
がんの死亡数率（人口 10 万対）の推移を見ると、「粗死亡率」は全国、岡山県とも増加傾向、高齢化の影響を除いた「年齢調整死亡率」は全国、岡山県とも減少傾向にある。

性別死亡率の推移（平成 22 年）（人口 10 万対）

男



女

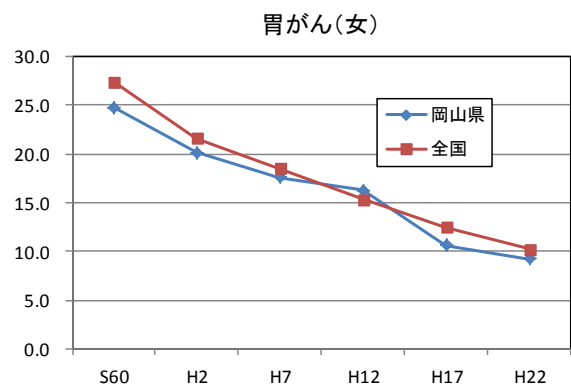
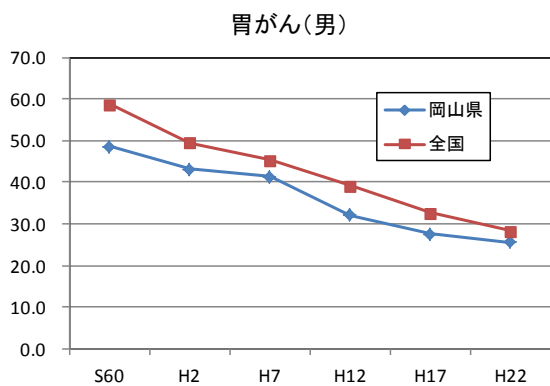
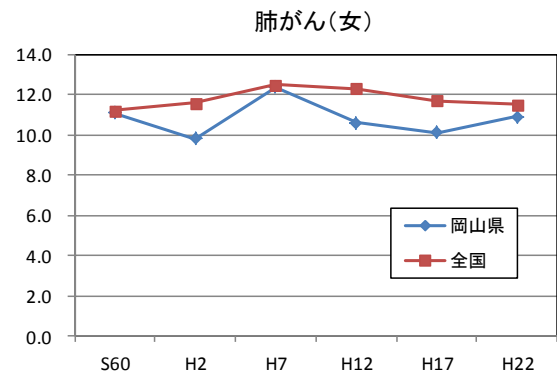
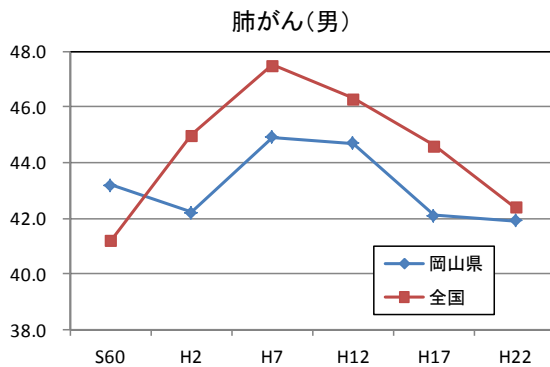
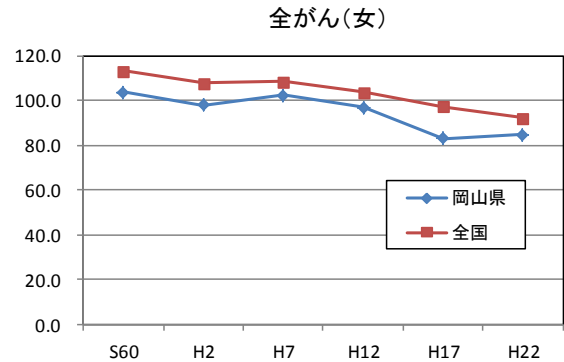
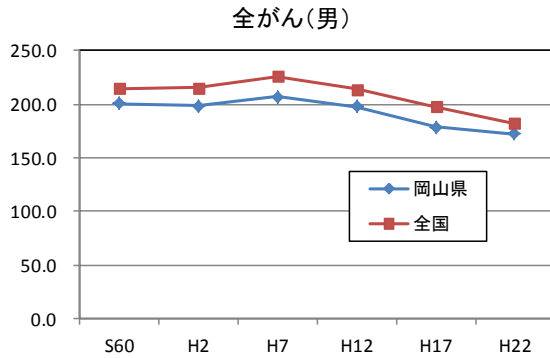


【出典：厚生労働省「平成 22 年人口動態統計」】

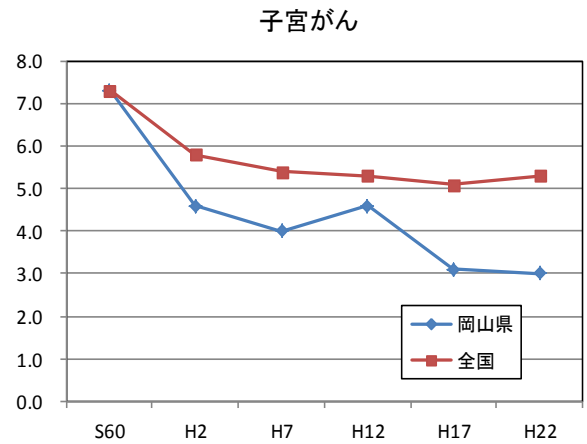
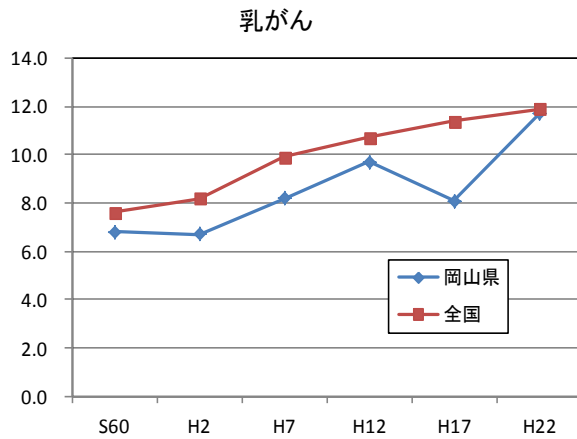
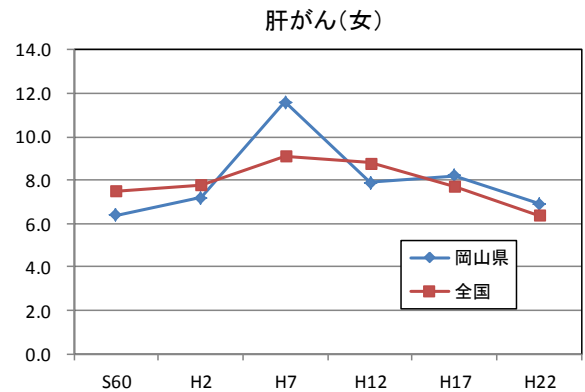
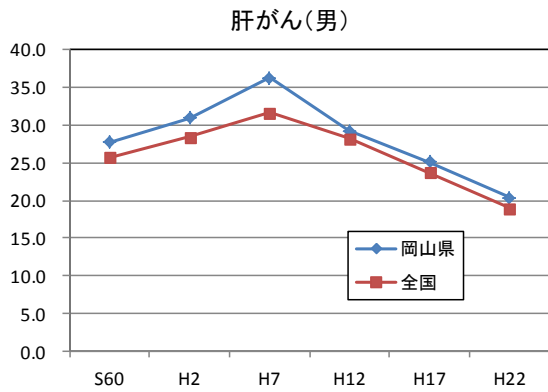
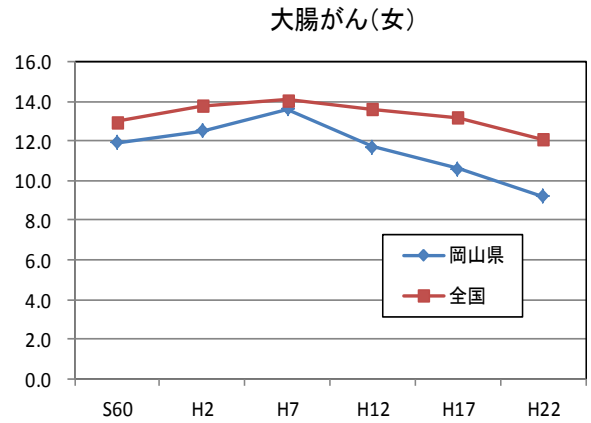
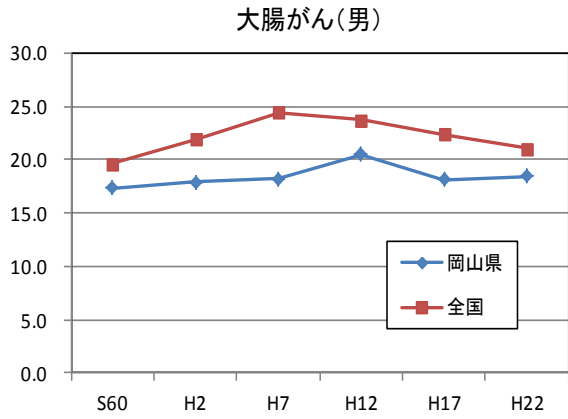
## ⑥ がんの性別・部位別年齢調整死亡率

5大がん（肺、胃、肝臓、大腸、乳房）及び子宮がんの部位別年齢調整死亡率の推移を見ると、男女とも肝臓がん以外は全国平均より低い状況で推移しており、特に胃がんは男女とも減少傾向となっている。また、男性では大腸がん、女性では乳がんが増加傾向にある。

性別部位別年齢調整死亡率の推移（人口10万対）





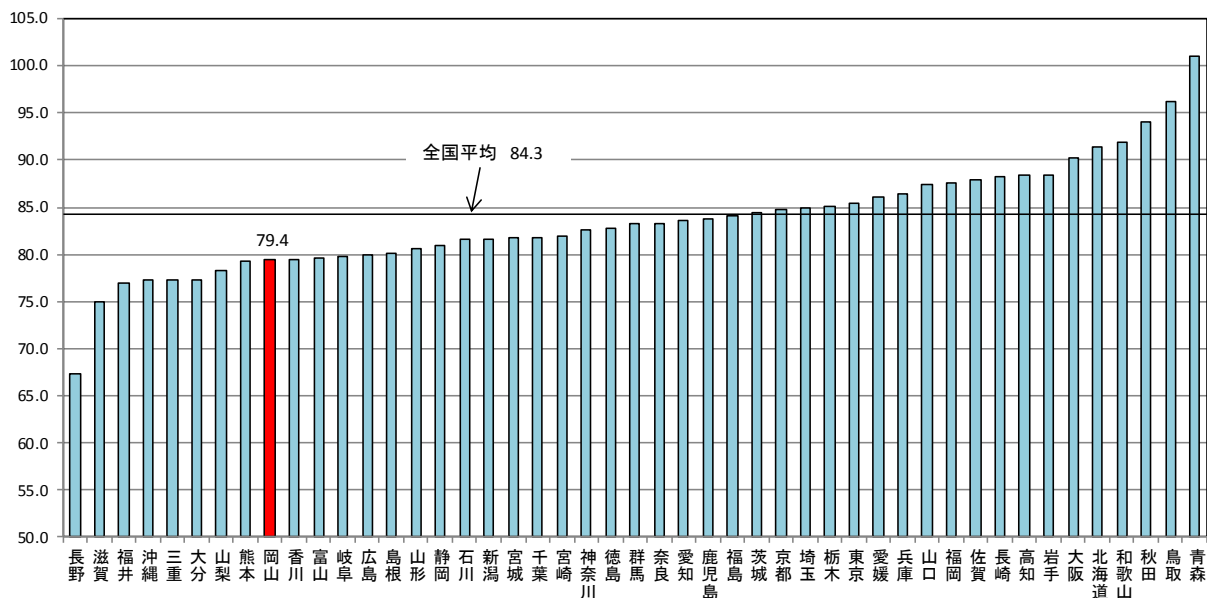


【出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計特殊報告」(全がん、肺、胃、大腸)岡山県推計(その他)】

⑦ がんの75歳未満年齢調整死亡率

岡山県は全国と比較して、がんの75歳未満年齢調整死亡率は低く、平成22年は全国で9位である。

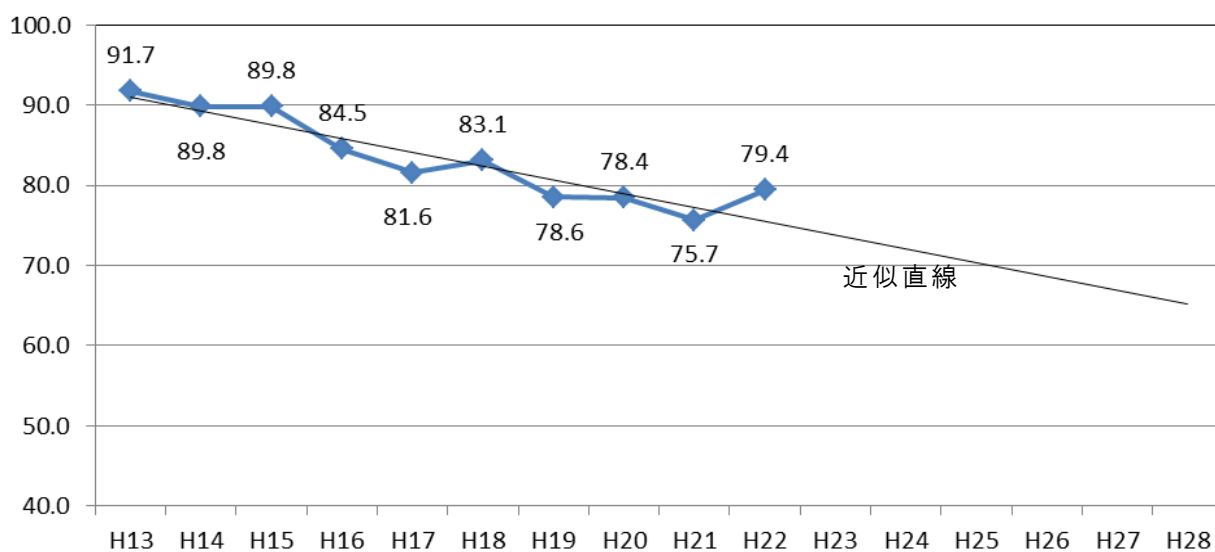
都道府県別 75歳未満年齢調整死亡率（平成22年）（人口10万対）



【出典: 国立がん研究センターがん対策情報センター「都道府県別死亡データ」】

また、年次別の年齢調整死亡率の推移を見ると減少傾向であり、このままの推移で続くと、平成28年に66.5とする目標の達成に向け概ね順調に推移している。

75歳未満年齢調整死亡率の推移（人口10万対）

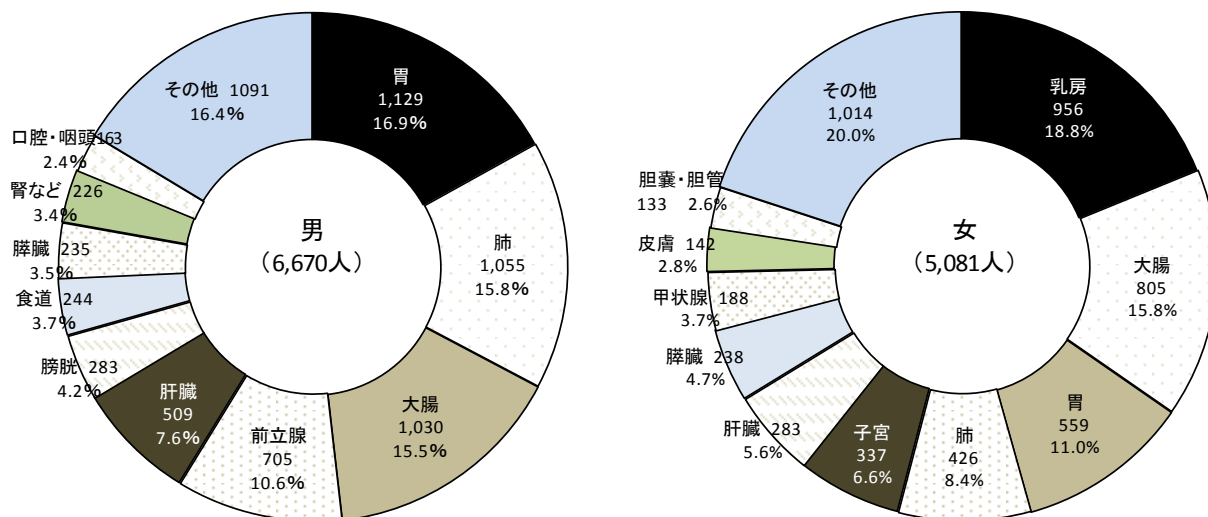


## (2) がんの罹患の状況

### ① がんの罹患数

がんの罹患の部位別状況を見ると、男性では胃がんが最も多く、次いで肺、大腸の順である。女性では乳房が最も多く、次いで大腸、胃の順である。

主要10部位別性別罹患数及び割合（平成20年）



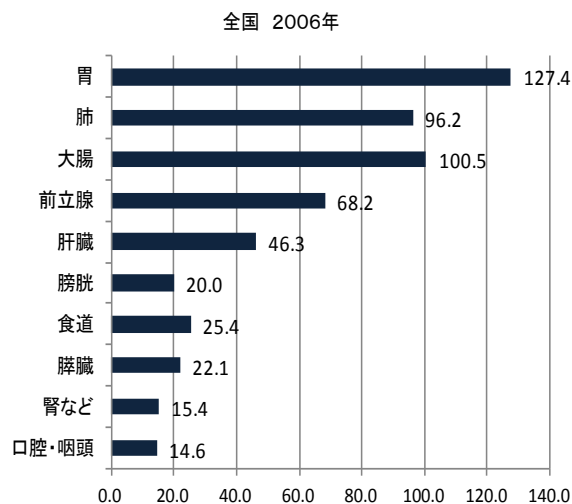
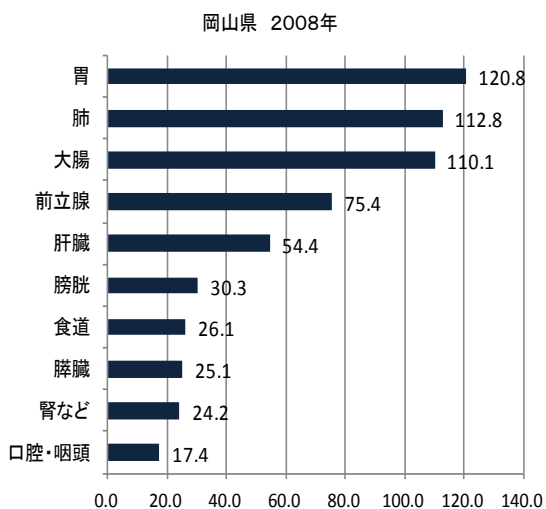
【出典：岡山県「岡山県におけるがん登録2008」】

### ② がんの罹患率

がんの罹患率の部位別状況を全国と比べて見ると、岡山県、全国とも男性は胃が最も高く次いで、肺、大腸の順である。女性は乳房が最も高く次いで、大腸、胃の順となっている。

男性の主要部位別罹患率

(人口10万対)

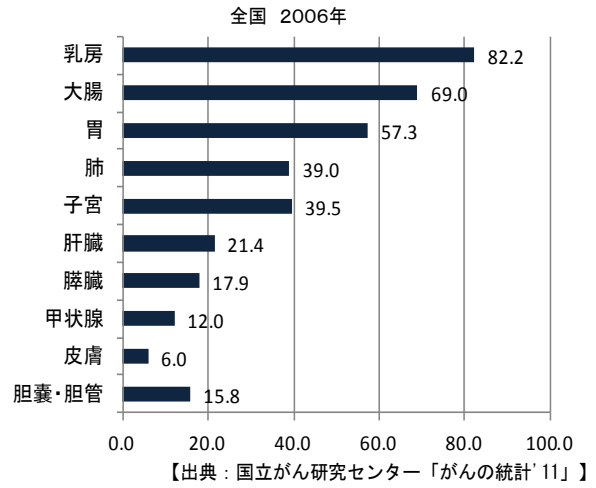
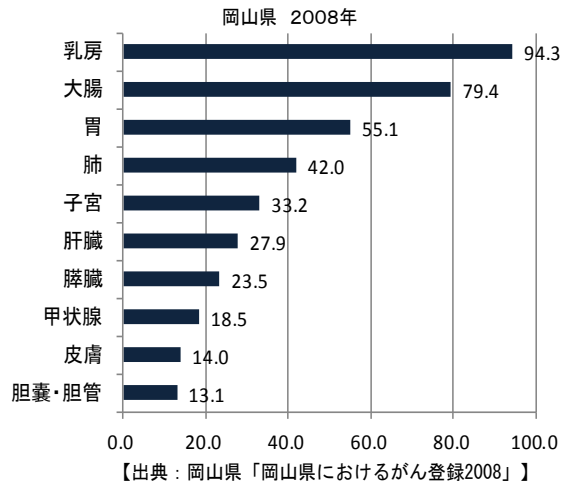


【出典：岡山県「岡山県におけるがん登録2008」】

【出典：国立がん研究センター「がんの統計'11」】

## 女性の主要部位別罹患率

(人口10万対)



## 2 がんの予防の状況

### (1) 喫煙問題

本県の成人の喫煙率は、男性29.8%（前回42.6%）、女性6.3%（前回6.1%）となっており、前回の調査より男性は減少し、女性は増加している。（前回：平成16年、直近：平成23年、いずれも県民健康調査（岡山県）平成23年分は速報値）

また、中高生の喫煙率は、平成22年度の調査では、中学生では増加したものの全体では減少傾向である。

青少年の喫煙率(喫煙率目標:0%)

指 標		平成18年	平成22年
ほぼ毎日たばこを吸っている	中学生	0.5% (n=747)	0.9% (n=742)
	高校生	2.5% (n=889)	2.1% (n=873)
	中高全体	1.6% (n=1,636)	1.5% (n=1,615)

(出典:男女共同参画青少年課「岡山県青少年の意識等に関する調査」)

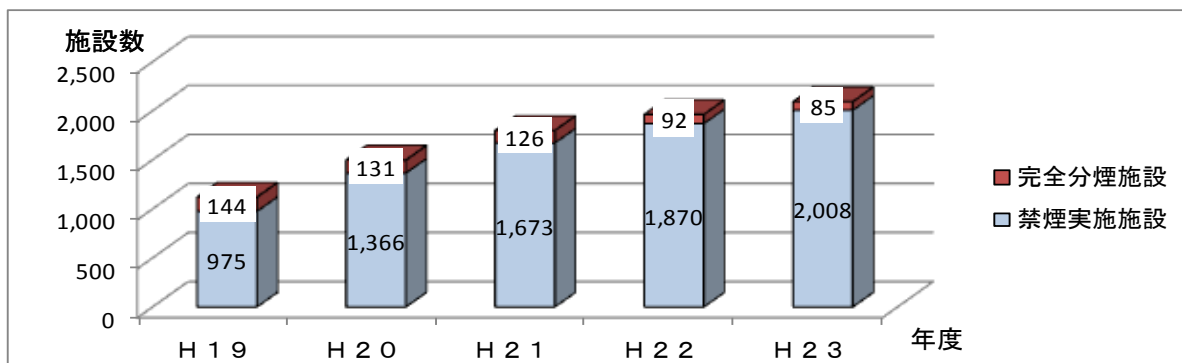
このため、たばこの害についての知識の普及、未成年者の喫煙対策、分煙対策について、健康おかやま21と同じ目標値を掲げて取り組んでいる。

#### ①「禁煙・完全分煙実施施設」認定事業

禁煙・分煙を実施している施設について、「禁煙実施施設」、「完全分煙実施施設」として認定している。

《平成23年度末認定数 2,093施設》

「禁煙・完全分煙実施施設」認定状況（目標:1,500施設以上）



#### ②「たばこの害」の普及啓発事業

未成年の喫煙防止対策として、県内の小学校6年生、中学校1年生を対象にリーフレットを配布し、たばこの害についての啓発を行っている。

《平成23年度配布数 約24,000部》

また、岡山県禁煙問題協議会、岡山県愛育委員連合会等と連携して禁煙の普及啓発活動を行っている。

#### ③禁煙問題アドバイザー派遣事業

禁煙問題に関する講演会等へ「禁煙問題アドバイザー」を派遣している。

《平成23年度実績 派遣回数 10回 参加人員 446人》

#### ④がん対策協賛事業の認定（健康おかやま21協賛事業の一環）

地域で行っている各種団体や学校、企業、市町村等が行うがん対策を目的とした取り組みを「がん対策協賛事業」として認定し、広報、チラシの提供などの支援を行っている。

《平成23年度末現在認定事業数 29事業》

### （2）肝炎対策

我が国の肝炎ウイルスの持続感染者は、B型が110万人から140万人、C型が200万人から240万人存在すると推定されており、ウイルス性肝炎は国内最大の感染症である。肝がんによる年間死亡者は、毎年全国で約3万人、本県では約600人となっている。

肝炎対策については、国の肝炎対策基本方針に基づいて平成23年10月に「岡山県肝炎対策計画」を策定し、総合的に取り組んでいる。

#### ①肝炎ウイルス検査・相談事業

- ・無料相談・無料肝炎ウイルス検査

保健所において相談・肝炎ウイルス検査を実施し、肝炎専門医療機関（県指定107医療機関（H24.4.1時点））においても肝炎ウイルス検査を実施している。

（検査対象：B型肝炎及びC型肝炎）

肝炎無料検査 受診件数（平成23年度） （単位：件）

	医療機関実施分	保健所実施分	合計
B型	101	173	274
C型	101	173	274

#### ②肝炎ウイルス検診事業（市町村事業）

肝炎ウイルスに関する正しい知識を普及するとともに、肝炎ウイルス検診により住民が自身の肝炎ウイルス感染の状況を認識し、必要に応じて保健指導等や医療機関の受診により、肝炎による健康障害を回避し、症状を軽減し進行を遅延させるため実施している。

〈参考〉肝炎ウイルス検診の実施状況（平成23年度健康増進事業）

区 分	平成23年度
B型肝炎検診受検者数（人）	8,946
C型肝炎検診受検者数（人）	8,939

#### ③肝炎患者支援手帳「もも肝手帳」

肝炎ウイルス検査による陽性判明後も治療を受けていない者や肝炎専門医療機関を受診していない者を解消するため、肝炎の病態、治療方法、肝炎治療に関する助成制度等を記載した肝炎患者支援手帳を平成23年8月に作成し、肝炎患者支援手帳の活用を希望する医療機関等に配布している。

#### ④肝炎医療費助成事業

B型及びC型ウイルス性肝炎は、インターフェロン治療及び核酸アナログ製剤

治療によって、その後の肝硬変や肝がんといった重篤な病態を防ぐことが可能な疾患である。このため、早期治療の促進のため、このインターフェロン治療及び核酸アナログ製剤治療に係る医療費の助成を実施している。

- ・インターフェロン治療助成開始年度：平成20年度
- ・核酸アナログ製剤治療助成開始年度：平成22年度

(単位：件)

	インターフェロン治療	核酸アナログ製剤治療
年度	認定件数	認定件数
20	866	—
21	558	—
22	502	1,397(918)
23	258	960(191)

( )内はうち新規数

#### ⑤肝疾患診療連携拠点病院事業

平成19年12月に岡山大学病院を肝疾患診療連携拠点病院に認定し、岡山県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会の開催に携わるとともに、肝疾患診療に携わる地域の医療従事者に対する研修会の開催に協力している。

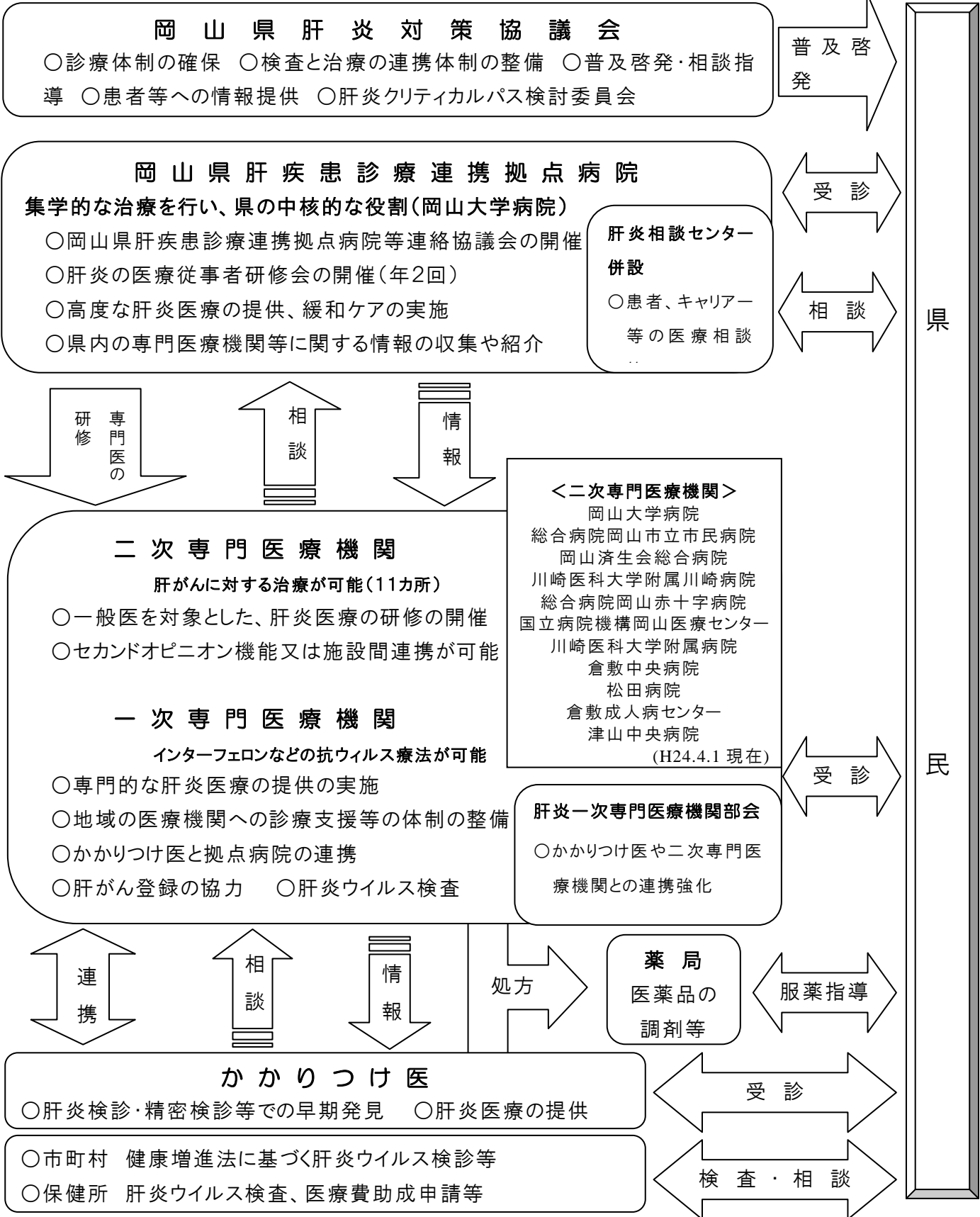
また、患者、家族等からの医学的な相談に対応する岡山県肝炎相談センターを同病院には併設している。

##### 岡山県肝炎相談センター

電話番号 : 086-235-6851

電話受付時間 : 月・水・木曜日の14:00～16:30

# 岡山県肝炎対策事業体系図





### (3) 生活習慣

本県の生活習慣の現状を県民健康調査の結果で見ると、前回の調査（平成16年）に比べて改善されており、目標が達成されている項目もある。

「健康おかやま21」に定める生活習慣項目の指標と目標値(抜粋)				
指標		直前値	現状値	目標値
		H16	H23*	
食塩摂取量の減少	成人の1日当たりの平均食塩摂取量の減少	10.2g	10.0g	10g未満
野菜の摂取量の増加	成人の1日当たりの野菜の平均摂取量増加	277g	282.9g	350g以上
日常生活における歩数の増加	男(20～59歳)	7,745	8,129	8,500歩以上
	女(20～59歳)	6,873	7,040	8,500歩以上
	男(60歳以上)	6,144	6,262	6,000歩以上
	女(60歳以上)	5,031	5,237	6,000歩以上
1日に平均純アルコールで約60gを超える多量飲酒者の減少		2.3%	1.3%	1.8%以下
			*現状値H23分は、速報値	

未成年の飲酒率は中学生、高校生とも減少傾向である。

青少年の飲酒率（飲酒率目標：0%）

指標		平成18年	平成22年
ほぼ毎日飲酒をしている	中学生	3.7% (n=747)	3.0% (n=742)
	高校生	10.6% (n=889)	5.7% (n=873)
	中高全体	7.5% (n=1,636)	4.5% (n=1,615)

(出典:男女共同参画青少年課「岡山県青少年の意識等に関する調査」)

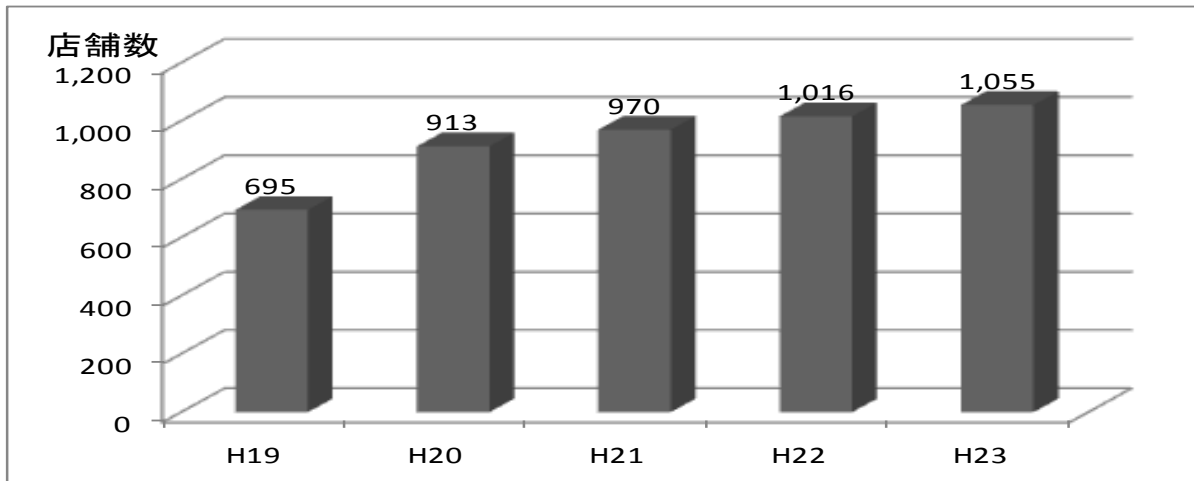
がんと関連する生活習慣のうち、栄養・食生活、身体活動・運動、アルコールについて健康おかやま21と同じ目標値を掲げて取り組んでいる。

#### ①「栄養成分表示の店」の登録事業

県民が、外食時に必要な栄養成分を知り、必要な栄養成分を過不足なく摂取できるよう、「栄養成分表示の店」を登録している。

《平成23年度末現在登録店舗数 1,055施設》

「栄養成分表示の店」登録状況(目標:900以上)



②岡山県栄養改善協議会

地域で食生活改善を中心とした健康づくりのボランティア活動を行っている栄養改善協議会の活動について、栄養委員が自主的に活動できるよう市町村が行う栄養委員の育成や栄養改善地区組織の育成を支援している。

栄養委員は、健康おかやま21を推進するとともに、減塩食の普及や肥満予防を目的とした健康づくり普及教室の開催、みそ汁の塩分濃度測定、栄養成分表示の店登録事業の推進への協力、栄養サロンやホームページによる情報の発信等を行っている。

《平成23年度栄養委員数 7,477人 自己学習活動 50,618回》

平成23年度栄養委員活動実施状況(がん予防関連)

		生活習慣病予防	高齢者の健康 ・食生活	合計
集 会	回数	13,425	8,440	21,865
	参加人数	109,547	118,890	228,437
対 話 ・ 訪 問	対象人数	194,155	197,008	391,163

③アルコール対策

ラジオ・広報誌等を通じて「適正飲酒」の普及啓発を行っている。

また、未成年者の飲酒をなくすため、教育媒体を活用し、市町村や関係団体と連携して飲酒の害について教育を行っている。

### 3 がん検診の状況

#### がん検診の内容

		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん:女性	子宮がん:女性
対 象	国	40歳以上	40歳以上	40歳以上	40歳以上	20歳以上
	県				30歳以上	
実施回数	国	1回/年	1回/年	1回/年	1回/2年	1回/2年
	県				1回/年*2	
検診項目	国・県	・問診 ・胃部X線	・問診 ・便潜血	・問診 ・胸部X線 ・喀痰細胞診 *1	・問診 ・視触診*3 ・乳房X線*4	・問診 ・視診 ・子宮頸部細胞診 ・内診

\*1 問診により対象とされた者

\*2 やむを得ない場合は1回/2年

\*3 30歳代:視触診単独検診(岡山方式)

\*4 40歳以上:視触診及びマンモグラフィ(乳房エックス線検査)併用検診

※乳がん検診について、本県では、平成16年度に「岡山県乳がん検診指針」を策定し、市町村においては、この指針に基づき検診を実施している。

国の指針:40歳以上を対象、2年に1回、問診、視触診、乳房X線検査を行う。

県の指針:30歳以上を対象、毎年、30歳以上は、問診、視触診、40歳以上は問診、視触診、乳房X線検査を行う。

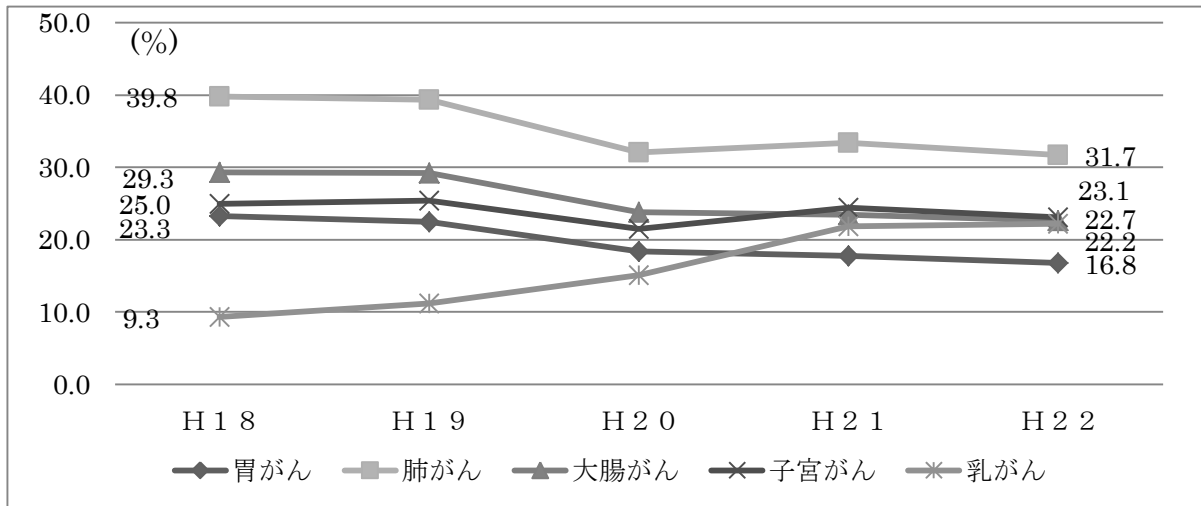
#### (1) がん検診の受診率

県内の市町村が行っているがん検診の受診率は、子宮がんを除き、全ての検診で全国より高いものの、最も高い肺がんでも31.7%であり、目標とする50%には届かない状況である。しかし、乳がん検診の受診率については、上昇傾向にある。

また、人間ドックなど自己負担での検診や医療保険者による検診なども含めた受診率は、全ての検診で30%台となっている。

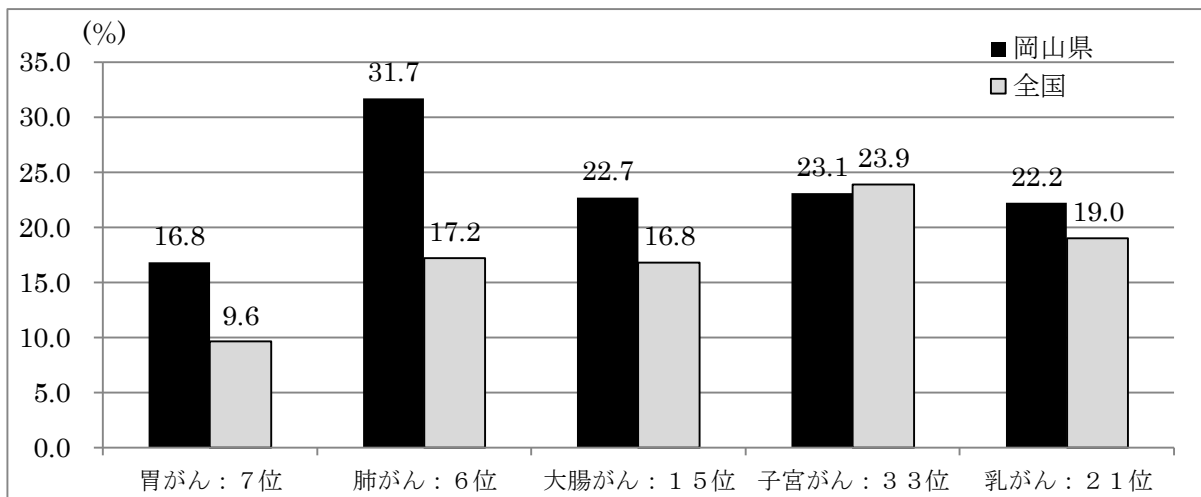
精密検査受診率は、最も高い胃がん78.2%と、目標とする90%には届かない状況であるが、胃がん、大腸がん、肺がんの受診率は上昇傾向にある。

市町村が実施するがん検診受診率の年次推移（目標50%以上）

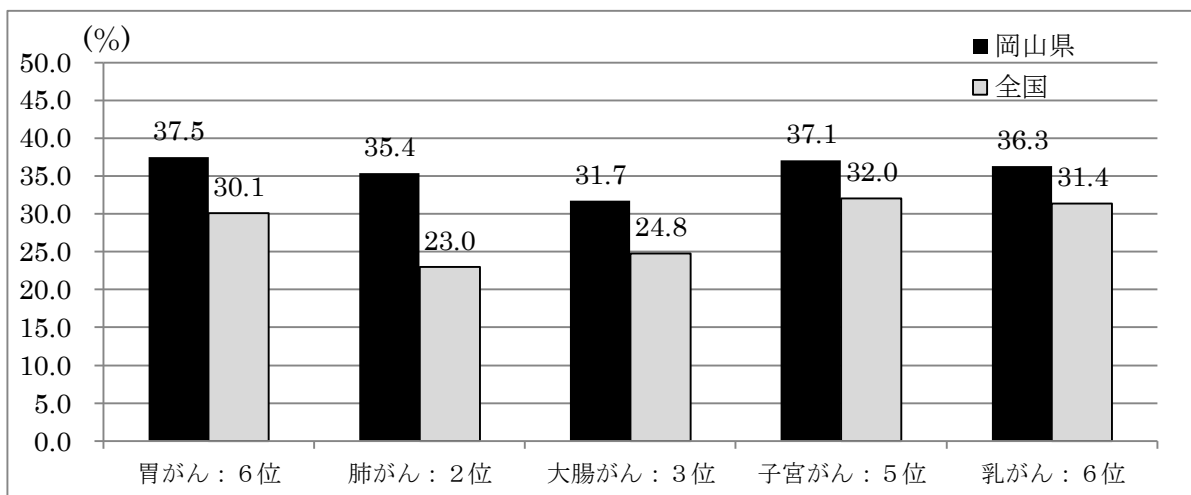


【出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」】

市町村が実施するがん検診受診率及び全国との比較

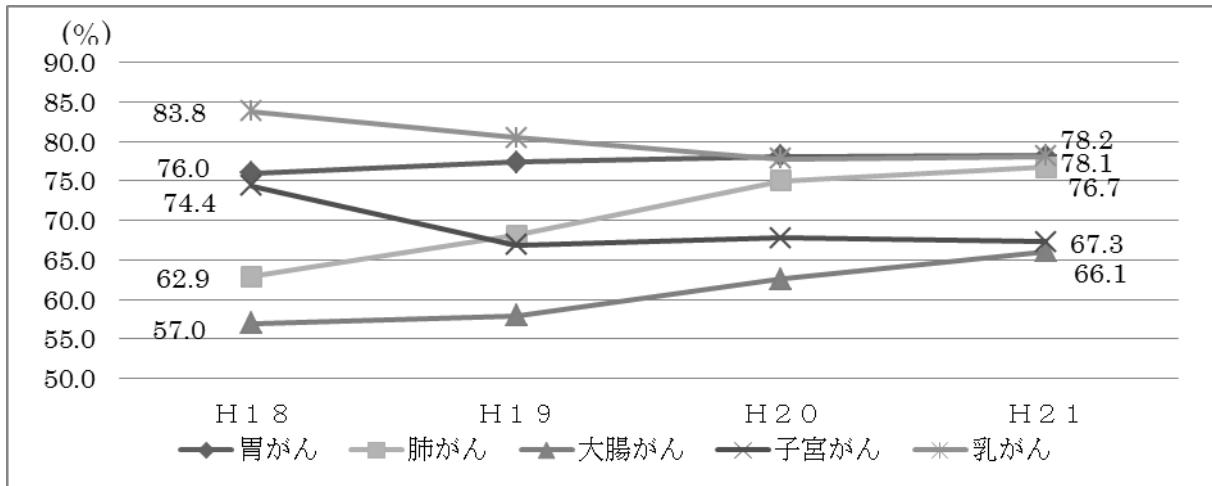


【出典：厚生労働省「平成22年度地域保健・健康増進事業報告」】  
がん検診受診率及び全国との比較



【出典：厚生労働省「平成22年度国民生活基礎調査」】

がん精密検査受診率の年次推移（目標 90%以上）



【出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」】

本県においては、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん及び乳がんの検診の受診率（市町村、医療保険者及び全額自己負担実施分を含む）をいずれも 50%以上とすることを目標に取り組んでいる。

また、精密検査受診率をいずれも 90%以上を目標として取り組んでいる。

①岡山県愛育委員連合会

愛育委員は母子保健のボランティアとして誕生したが、時代と共に変化する健康問題に対応し、現在では、生活習慣病対策や高齢者支援等に活動の範囲を広げている。

地域の健康づくりボランティアである岡山県愛育委員連合会の活動について、愛育委員が自主的に活動できるよう、新人愛育委員やリーダー等に対する研修会の開催等を通じて育成を行い、活動の支援を行っている。

愛育委員は、健康おかやま 21 の推進をはじめ、禁煙運動の推進や、個別訪問によるがん検診の受診勧奨、検診当日の介助等を行っており、特に乳がん・子宮がんについては、啓発キャンペーン等、重点的に受診率向上に向けた取組を行っている。

《平成 23 年度愛育委員数 18,281 人（岡山市 5,453 人含む）》

平成 23 年度愛育委員活動実施状況（がん予防関連、岡山市除く）

	成人・老人保健	感染症	その他	合計
検診等参加者数	230,689	79,642	96,522	406,853
家庭訪問・声かけ活動件数	945,499	299,245	231,792	1,476,536

## ②乳がん・子宮がん検診受診促進事業

### ・岡山県がん予防ネットワーク事業

平成19年度から岡山県美容組合との協働により、県内美容室にポスター等を掲示し、普及啓発を行っている。

《平成23年度配布施設数 約1,400施設》

### ・乳がん・子宮がん検診受診促進キャンペーン

#### □乳がん月間等普及啓発活動

乳がん月間(10月)、女性の健康週間(3/1~3/8)に、ラジオや広報誌等での受診勧奨、愛育委員等地区組織や患者団体と協働して、街頭での普及啓発を行っている。

《平成23年度実績 開催回数：41回、参加人員：7,641人》

#### □乳がん・子宮がん予防出前講座

地域の団体等に出向いて講演を実施している。

《平成23年度実績 開催回数：11回、参加人員：419人》

## ③がん征圧岡山県大会(平成24年度 平成24年9月4日)

9月の「がん征圧月間」に、岡山県医師会、岡山県健康づくり財団、日本対がん協会岡山県支部との共催により、がん予防に関する正しい知識の普及と、より積極的な対がん運動を県民全体で推進するために実施している。

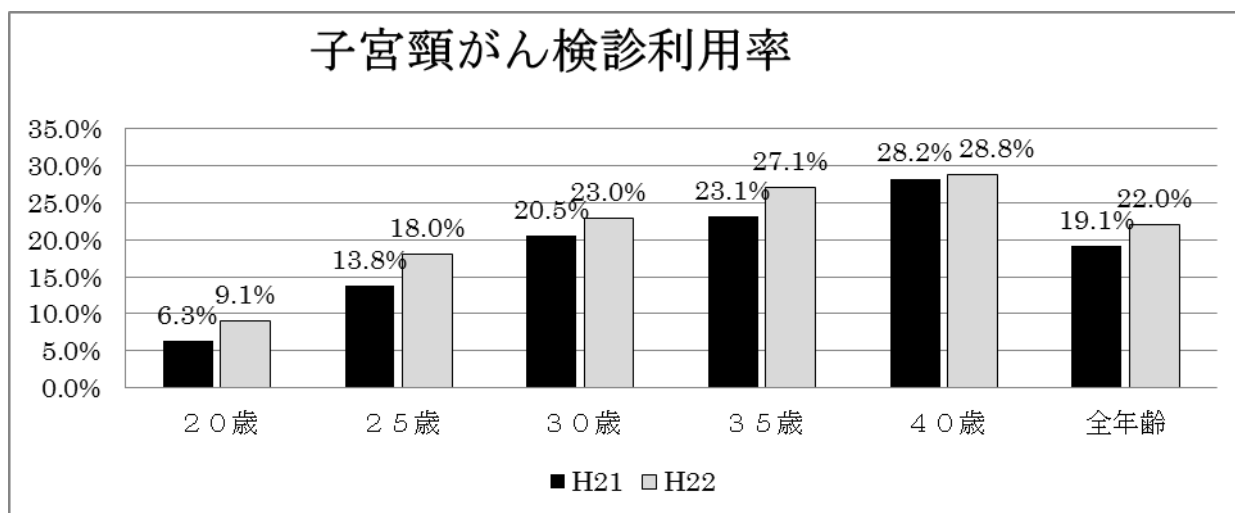
内容・がん征圧事業功労者、団体への感謝状贈呈

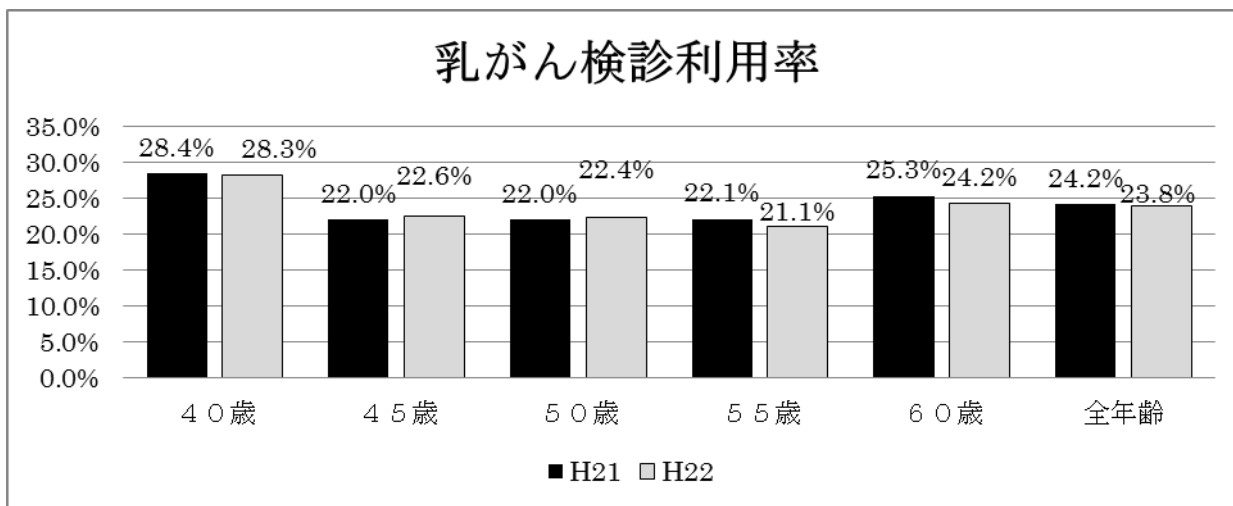
・がん検診等に関するシンポジウム

## ④がん検診推進事業(市町村事業)

特定の年齢の者に対して無料クーポン券を送付し、子宮がん、乳がん、大腸がん検診を実施している。平成23年度から大腸がん検診が追加された。

クーポン券利用率(平成22年度)





## (2) がん検診の質

市町村が行っているがん検診の精度について、国が提示する\*「がん検診を適正に実施する上で基本的な要件である許容値」と比較すると、以下のとおりとなる。

\*平成20年3月「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について報告書：がん検診事業の評価に関する委員会」

精検受診率は、大腸がん、子宮がん、乳がん、がん発見率は胃がん、乳がんが許容値に満たないが、陽性反応適中度は全ての検診で許容範囲内であり、県内では、精度の高い適正ながん検診が行われていると判断できる。

各がん検診の許容値と岡山県の比較

	胃がん		肺がん		大腸がん		子宮がん		乳がん	
	岡山県	許容値	岡山県	許容値	岡山県	許容値	岡山県	許容値	岡山県	許容値
要精検率	6.9	11.0%以下	2.6	3.0%以下	6.7	7.0%以下	0.9	1.4%以下	7.1	11.0%以下
精検受診率	78.2	70%以上	76.7	70%以上	<u>66.1</u>	70%以上	<u>67.3</u>	70%以上	<u>78.1</u>	80%以上
がん発見率	<u>0.09</u>	0.11%以上	0.04	0.03%以上	0.13	0.13%以上	0.05	0.05%以上	<u>0.22</u>	0.23%以上
陽性反応適中度	1.4	1.0%以上	1.4	1.3%以上	1.9	1.9%以上	5.1	4.0%以上	3.1	2.5%以上

【出典：厚生労働省「平成21年度地域保健・健康増進事業報告」】

\*許容値＝上記委員会が提唱する最低限の基準

【参考】がん検診事業評価指標値について

○計算方法

- ・要精検率＝要精検者数／受診者数×100
- ・精密検査受診率＝精検受診者数／要精検者数×100
- ・がん発見率＝がんであった者／受診者数×100
- ・陽性反応適中度＝がんであった者／要精検者数×100

市町村・検診機関により精度管理や事業評価が適正に実施され、がん検診の更なる精度の向上が図られる体制を目指す。

#### ①岡山県がん精密検診結果管理収集事業

市町村が実施するがん検診の精密検診の結果を収集、分析し、検診の効果を把握し結果を一次検診実施機関等に提供することにより、検診精度の維持向上及びがん予防対策の推進を図っている。

(平成23年度から岡山大学病院に委託)

《精密検診医療機関からの結果報告件数：平成21年度 19,311件

平成22年度 19,484件

平成23年度 17,508件

(～3/31受付分)》

#### ②岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会

検診の実施方法や精度管理のあり方について、専門的な見地から適切な指導を行うとともに、今後の生活習慣病対策の推進について協議を行い、検診の質の管理を行っている。

協議会に7部会を設置し、各部会において、検診の評価や精密検診機関の登録・管理等を行っている。(循環器疾患等部会、胃がん・大腸がん部会、子宮がん部会、肺がん部会、乳がん部会、がん登録委員会、がん診療連携部会)

特に、肺がん検診については、平成23年度から「精度管理調査」を実施し、県のホームページ上に、市町村、検診機関の調査結果を公表している。また、結果を踏まえ、精度管理が不十分な市町村、検診機関については、改善指導を行い、県民が安心して受診できるがん検診の質の確保を図っている。

参考：健康推進課ホームページ (<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/36/>)



#### 4 がん医療提供体制の状況

県南部の2つの二次保健医療圏と県北部の3つの二次保健医療圏では、人口構成、医療施設の状況など、医療提供体制において状況が大きく異なっている。

##### 二次保健医療圏の状況

二次保健医療圏	面積※1 (km <sup>2</sup> )	人口※2 (人)	人口割合 (%)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	老年人口(人) (65歳以上)	高齢化率 (%)	病院数 ※3	がん診療連携拠点病院・推進病院			
								県拠点病院	地域拠点病院	推進病院	計
県南東部	1,906.84	921,005	47.5	483.0	216,576	23.5	81	1	3	3	7
県南西部	1,123.03	713,594	36.8	635.4	175,678	24.6	57		2	1	3
高梁・新見	1,340.28	67,838	3.5	50.6	23,767	35.0	9				
真庭	895.53	49,270	2.5	55.0	16,527	33.5	8			1	1
津山・英田	1,847.55	189,016	9.7	102.3	55,179	29.2	18		1		1
合計	7,113.23	1,940,723	100.0	272.8	487,727	25.1	173	1	6	5	12

※1 【出典：国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（平成23年10月1日現在）】

※2 【出典：平成23年10月1日現在流動人口調査】

※3 【出典：岡山県「平成24年4月1日現在保健福祉施設・病院名簿」】

##### (1) がん治療の提供体制

県内における主ながん治療の実施施設数や主ながんの手術の実施状況を見ると、県南に集中している。

##### 主ながんの手術件数（平成22年度）

領域	呼吸器領域		消化器系領域		肝・胆道・膵臓領域		婦人科領域		乳腺領域		
	施設数	件数	施設数	件数	施設数	件数	施設数	件数	施設数	件数	
二次保健医療圏	県南東部	17	561	29	1,477	22	472	16	186	22	566
	県南西部	13	344	27	1,182	17	262	5	144	20	561
	高梁・新見	—	—	4	18	—	—	1	0	3	3
	真庭	3	1	4	35	3	0	—	—	5	3
	津山・英田	3	62	4	246	2	47	2	13	3	52
計	36	968	68	2,958	44	781	24	343	53	1,185	
計画策定時（平成19年度報告）	37	756	68	3,082	43	810	24	335	51	961	

【出典：平成23年度岡山県医療機能調査】

緩和ケア・放射線治療・外来化学療法の医療機関数（平成22年度）

領域		緩和ケア領域		放射線治療領域					外来での化学療法
治療種別		医療用麻薬によるがん疼痛治療	がんに伴う精神症状のケア	体外照射	ガンマナイフによる定位置照射	直線加速器による定位放射線治療	密封小線源照射	術中照射	
二次保健医療圏	県南東部	172	55	6	1	3	1	3	64
	県南西部	106	34	3	—	2	2	—	41
	高梁・新見	10	5	—	—	—	—	—	2
	真庭	15	—	—	—	—	—	—	5
	津山・英田	38	11	1	—	—	—	—	12
計		341	105	10	1	5	3	3	124
計画作成時(平成19年度報告)		300	90	12	1	3	3	3	125

【出典：平成23年度岡山県医療機能調査】

(2) 県・地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院の整備状況

全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者に対する相談支援等を行う医療機関を、県・地域がん診療連携拠点病院として国が指定している。

本県では、「県がん診療連携拠点病院」として岡山大学病院を、「地域がん診療連携拠点病院」として岡山済生会総合病院、総合病院岡山赤十字病院、国立病院機構岡山医療センター、倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院を整備している。

また、県民がどこに住んでいても標準的ながん医療を受けられる体制の構築を図るため、がん診療連携に積極的な医療機関の中から、一定の水準を満たす医療機関をがん診療連携推進病院として県が認定している。

平成24年4月1日現在、労働者健康福祉機構岡山労災病院、総合病院岡山市立岡山市民病院、川崎医科大学附属川崎病院、倉敷成人病センター、金田病院を整備している。

①がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院の状況

がん診療連携拠点病院の入院患者数、治療実績等は次のとおりである。

がんによる入院患者数・割合

	病院名	年間入院患者数の状況	
		年間新入院がん患者数 (平成22年1月～12月)	年間新入院患者数に占める がん患者の割合(%)
拠点病院	岡山大学病院	5,862	32.7
	岡山済生会総合病院	3,046	24.3
	総合病院岡山赤十字病院	2,378	21.2
	国立病院機構岡山医療センター	2,462	17.2
	倉敷中央病院	7,028	22.2
	川崎医科大学附属病院	3,276	21.7
	津山中央病院	1,940	18.9
推進病院	労働者健康福祉機構岡山労災病院	1,412	22.6
	総合病院岡山市立市民病院	1,123	18.8
	川崎医科大学附属川崎病院	1,193	21.0
	倉敷成人病センター	1,476	19.7
	金田病院	247	11.1

【出典：岡山県 平成23年度がん診療連携拠点病院現況報告書】  
がん診療連携推進病院認定申請書】

主ながんの手術件数

	病院名	治療件数(手術件数)平成23年4月～7月の集計												
		悪性腫瘍 手術総数	肺がん		胃がん			大腸がん			肝臓がん		乳がん	
			開胸手術	胸腔鏡下 手術	開腹手術	腹腔鏡下 手術	EMR+ESD	開腹手術	腹腔鏡下 手術	内視鏡 手術	開腹手術	腹腔鏡下 手術		ラジオ波 焼灼療法
拠点病院	岡山大学病院	432	11	22	14	8	25	10	14	2	31	0	56	41
	岡山済生会総合病院	320	3	16	29	13	25	46	8	29	15	4	60	25
	総合病院岡山赤十字病院	220	2	20	11	18	7	2	15	2	3	1	7	19
	国立病院機構岡山医療センター	263	3	12	15	9	11	11	4	63	6	0	3	6
	倉敷中央病院	765	14	54	72	1	23	59	11	26	14	0	26	48
	川崎医科大学附属病院	231	6	27	15	6	20	20	17	19	5	0	0	78
	津山中央病院	241	1	4	16	0	32	16	0	26	0	0	9	2
推進病院	労働者健康福祉機構岡山労災病院	69	0	4	12	3	9	12	6	8	1	0	1	6
	総合病院岡山市立市民病院	109	0	0	7	0	3	8	0	0	0	0	72	5
	川崎医科大学附属川崎病院	52	7	8	8	1	4	9	0	9	0	0	0	0
	倉敷成人病センター	158	3	0	5	1	5	4	3	2	0	0	18	14
	金田病院	11	0	0	4	0	0	3	0	0	0	0	0	0

【出典：岡山県 平成23年度がん診療連携拠点病院現況報告書】  
がん診療連携推進病院認定申請書】

## 放射線治療・薬物療法・緩和ケアの状況

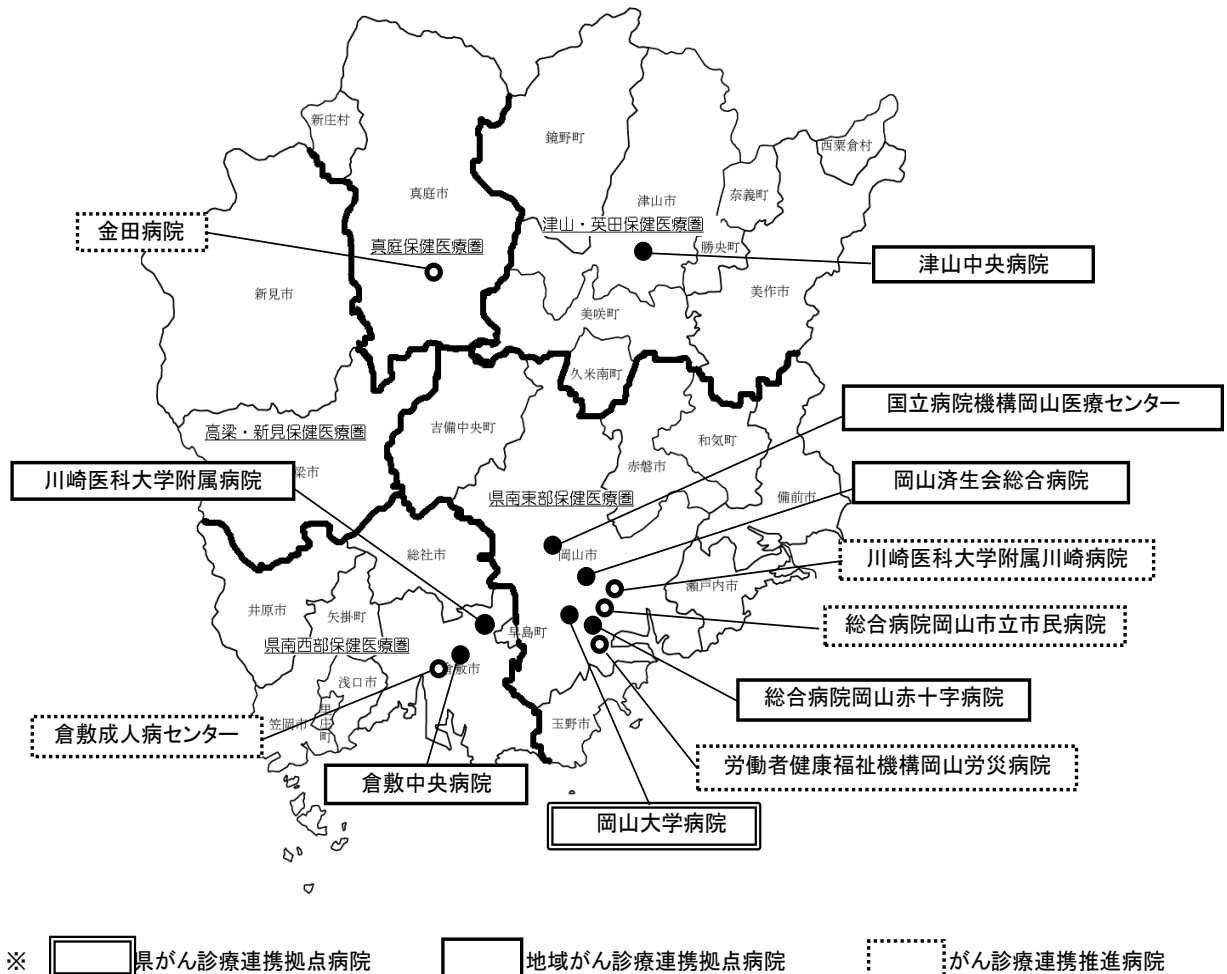
病院名	放射線治療		がん薬物療法		緩和ケア	
	年間患者実数（平成22年1月～12月）		薬物療法のべ患者数（平成23年4月～7月）		緩和ケア外来患者数 （平成22年1月～12月）	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 （平成23年6月～7月）
	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数		
岡山大学病院	624	19	1,096	2,084	143	25
岡山済生会総合病院	213	0	63	905	847	30
総合病院岡山赤十字病院	192	0	179	233	2,034	44
国立病院機構岡山医療センター	207	0	261	161	55	23
倉敷中央病院	592	4	830	910	10	30
川崎医科大学附属病院	611	87	412	465	107	13
津山中央病院	50	0	137	403	243	32
労働者健康福祉機構岡山労災病院	131	0	143	217	0	0
総合病院岡山市立市民病院	—	—	142	72	19	4
川崎医科大学附属川崎病院	—	—	84	66	0	6
倉敷成人病センター	—	—	116	99	431	6
金田病院	—	—	25	44	0	0

※ 推進病院の緩和ケアチームに対する新規診療依頼数は、平成23年11月～12月の実績

【出典：岡山県 平成23年度がん診療連携拠点病院現況報告書】

がん診療連携推進病院認定申請書】

### がん診療連携拠点病院・がん診療連携推進病院位置図



### (3) がん医療連携の推進

平成22年度に5大がんの地域連携クリティカルパスを作成し、その普及を図るため、保健所において地域の医療機関を対象に説明会を実施している。

#### 5大がんの地域連携クリティカルパス



※左から、肺、胃、肝臓、大腸、乳房の地域連携クリティカルパス

### (4) 緩和ケアの推進

緩和ケアとは、がん患者が抱える痛みなどの症状や不安・悩みなど多くの苦痛を和らげるとともに、患者及び家族の精神的なサポートを行うものであり、治療の初期段階から行うものである。

#### 国の指針に基づく緩和ケア研修会の実施状況

年度	開催回数	修了人数
20年度	3回	83人
21年度	9回	245人
22年度	8回	233人
23年度	8回	161人
合計	28回	722人



## (5) がん患者・家族への支援

がん患者及び家族への支援については、がん患者会ネットワーク会議を通じて、患者会同士の情報交換の実施や、がん患者会が実施する研修会等へ専門家を派遣し、療養生活における不安や悩みについての助言を行っている。

また、県のホームページである「岡山がんサポート情報」により県のがんの状況、がん医療、がん検診、患者団体等の情報を発信している。

### がん患者会ネットワーク会議の開催状況

年 度	回 数
平成22年度	1回
平成23年度	2回

### がん患者会への専門家派遣事業実施状況

年 度	派遣回数	派遣講師数
平成22年度	7回	延べ7人
平成23年度	13回	延べ20人

### 岡山がんサポート情報のトップ画面

岡山県がん患者支援情報提供サイト  
岡山がんサポート情報

岡山県保健福祉部医療推進課（疾病対策推進班） 電話：086-226-7321  
健康推進課（健康づくり班） 電話：086-226-7328

メールマガジンのご案内

文字サイズ変更 | 元に戻す | 大きくする | 文字色変更 / 音声読み上げ  
※パソコン環境により変更できない場合があります。

岡山がんサポート情報トップ

検索

岡山がんサポート情報は、岡山県のがん情報を発信するサポートサイトです。

- がんかな?と思ったら
- がんの相談をしたい
- がん検診を受けたい

**がんに関する知識**

- 岡山県のがんの現状
- がん予防
- がん検診
- 各種がんの解説
- 検診機関
- 行政機関（国・県・保健所・市町村）及び関係団体

**医療・緩和ケアに関する情報**

- がん医療
- がん診療連携拠点病院
- 緩和ケア
- 緩和ケア研修会
- 緩和ケア研修会修了者
- 緩和ケア病棟がある病院

**がん相談に関する情報**

- がん相談支援センター
- 民間団体の相談窓口

**セミナー、研修の情報**

- 患者団体等が主催する研修会等（EXCELファイル）
- 岡山県が主催・後援等する研修会等（EXCELファイル）
- 国立がん研究センターが主催する研修会

**患者団体に関する情報**

- 患者団体一覧
- 患者団体等が主催する研修会等（EXCELファイル）

**療養支援に関する情報**

- 患者必携

**岡山県の取り組み**

- 岡山県がん対策推進計画
- 健康おかやま21
- たばこ対策に関する情報
- 肝炎対策
- 普及啓発活動

**統計情報**

- 岡山県がん登録事業
- 岡山県がん精密検診結果収集事業
- 岡山県の成人保健
- 岡山県衛生統計年報
- 国立がん研究センターがん情報サービス 統計情報

**リンク集**

- 岡山県がん診療連携協議会
- がん診療連携拠点病院
- おかやま医療情報ネット
- 岡山県医師会
- 検診機関
- 行政機関（国・県・保健所・市町村）
- 岡山県保険者協議会（特定健診）
- その他

# がんの医療連携体制

